
ある夢のように

彌生朱牙汰

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ある夢のように

【Nコード】

N2028Q

【作者名】

彌生朱牙汰

【あらすじ】

高校2年の叶^{かなた}多紗夜は普通の高校生活を送っていたが、新学期1日目の授業中、幼なじみの榊^{さかき}神士^{しんじ}が血まみれで立っている夢を見た。そして放課後その夢が現実…。その日を境に不吉な正夢を見ることが多くなった…。

離れたセカイ

4月7日

「ふわあゝ　眠い。」

今日から新学期の私立白夢高校2年の叶多紗夜は通学路を歩いていた。

「紗夜、おはよ。」

声をかけてきたのは幼なじみの榊神士。

「おーす」

紗夜はダルそうに言葉を返した。

別にいつもの事なので神士は気にせず隣を歩いた。
校門を目の前にしたとき

キン　コーン　カーン　コーン

と始業の鐘を聞き、二人はあわてて走った

「新学期早々、遅刻かよ　オイ神士っ！　何笑ってんだよ！　お前も遅刻だろ」

「いやゝ紗夜が焦ってんの面白いなゝと思って」

そんな会話をしながらそれぞれの教室へ駆け込んだ。

「セーフ」

「どこがセーフだ叶多　どうみても遅刻だろ」

と言ったのは1年の時の担任の園咲だ。

「えゝ今日だけ無しにして　てか今年も先生が担任かよー」

「なんだ、不満か？　まあいい、とりあえず席に着け。」

そう言われ紗夜は席に着いた。

クラスのメンバーは変わらないけどなんとなくクラス全体を見回した。

『勉強はめんどろだけど何か安心するなあ』
と思っている

隣の席から

「紗夜ちゃん、おはよう」

と小声で友達的那緒ちゃんが話しかけてきた。

「紗夜ちゃん今日も、榊君と一緒にだったね」

「神士！？ ああ学校行く途中で会ったんだよ。」

てか那緒まだあんなやつ好きなの！？ やめときなつてあんな人を小馬鹿にするナルシストなんてさ」

「でもかつこいって他の女の子からも人気だし…」あまりにも那緒が残念そうな顔をするので紗夜は

「ま、誰が誰を好きになろうと自由だけどな」と励ました。

- 始業式 -

『校長先生の話し長いなあ 早く終わんないかな始業』

式も終わリ授業が始まった。

朝からダツシュして疲れた紗夜は授業中に眠ってしまった。

(―― ピチャツ。)

『ん？ ここは？』

あー、夢かあ。でもこんな意識のはっきりしている夢なんて…』

ガサツ

『えっ！？ 誰がいる！？ なわけないか』

と思つて紗夜が後ろを振り返ると

『神士！！』

神士は血まみれで立っていた。

紗夜が「神士！」と呼ぶとこつちを向いた。でも神士の顔は死んだようだった。

紗夜が駆け寄ろうと踏み出した途端、闇にのみ込まれた。

）

「紗夜ちゃん　紗夜ちゃん！」

「はっ！　なんだ那緒か」

名前を呼ばれ、起こされた紗夜は目が覚めた。

「紗夜ちゃん授業終わったよ　ぐっすり眠ってたね」

どうやら１時間丸々寝ていたようだった。

その後の授業はさすがに眠くならなかった。

- 放課後 -

紗夜が部活の片付けをしていたら急に人氣が無くなった。

さっきまで部活のにぎわった音があったのに、まるで別の世界に居るように…

ガサッ

突然後ろから物音が聞こえて振り返ると人影があったので近づいた。

それは、神士だった。

「神士？」

と呟くと、こつちを向いた。

明らかにいつもの神士とは違った。

血まみれで死んだような顔でこつちを見ている。

違う。その目には何も映っていなかった。

そして足下には、はつきり判らないけど死体があった。

紗夜は、ふとさっきの夢を思い出した。

『まさか、正夢じゃないよね』

と思っていると神士が薄く笑いながらこっちへ歩いてくる。

『違う、いつもの神士と違う。』

紗夜はいつもと違う神士が怖くなつて後退った。

神士の手には血まみれの光る物があった。

それを見て紗夜はさらに後退りしたが、すぐに壁にぶつかった。それでも神士は近づいてくる。

『神士が襲ってくる』

神士が寸前まで来て手を振りかざす瞬間紗夜は目を閉じた

「きやあああああ」

叫びと同時に何かに包まれた気がした。

そして目を開けた。だかそこにはさっきまであった死体のようなものも、神士の姿もなかった…。

あるのは、いつもと変わらない放課後の学校だけ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2028q/>

ある夢のように

2011年1月19日00時16分発行